

「心のバリアフリー・ファッションショー」 企画概要書

1 趣旨及び目的

- ・美しさのちからで「誰もが輝ける社会」の実現を訴えます

障がいや病気と共に生きる人達が社会で活躍することは、とても困難なのが実情です。その要因の一つは、私達の心の中に無意識に生じてしまう障壁=バリアにあると考えます。

建物のバリアフリー化や法律の整備が進んでも、「周囲の視線が気になる」「他の人の迷惑になる」「理解が得られない」など、人々の「心のバリア」のせいで、楽しみを諦め、家にこもりがちです。

解決のためには、互いを知り、尊重し、助け合う「心のバリアフリー」の精神を社会に浸透させることが重要と考えます。

そこで、障がいや病気と共に生きるひと達と、プロのモデル、そして世界で活躍する資生堂トップヘアメイクアップアーティストの原田忠氏が作り上げるヘアメイクショーを通して、誰もが活躍出来る真のバリアフリー社会の実現を訴えます。

またイベントの後半では、障がいや病気と共に生きるモデルがランウェイを進む姿を、当会が製作する劇場用映画『ランウェイ』（仮題）の一場面として撮影します。観客はそのままエキストラとして参加可能です。

来年の公開を目指す当映画を通して、「心のバリアフリー」の更なる啓発に役立てます。

2 主催者

バリアフリー・フィルム・パートナーズ

担当者：代表・映画監督 帆根川 廣^{ほねかわ こう}

電話：03-6869-3373 E-mail：info@barrierfree-film.org

URL：http://barrierfree-film.org/fs

3 開催日時

2018年6月1日(金) 19:00～20:30（開場 18:30、メディア受付 17:30～）

4 会場

越谷 イオンレイクタウン KAZE 3階 イオンホール

所在地：埼玉県越谷市レイクタウン4丁目2-2 JR武蔵野線レイクタウン駅直結

5 出演者

アーティスト : 原田 忠 (資生堂トップヘアメイクアップアーティスト)
障がいのあるモデル : あやな なな
日置 有紀
田中 めぐみ (公募により選出)
※以上3名は、ヘアメイクショーと映画撮影に出演
他3名 (公募により選出) ※映画撮影のみ出演
プロのモデル : 3名 ※ヘアメイクショーのみ出演
司会進行 : 藤原 薫 (俳優)

6 対 象

観覧者 : 一般、200名程度 入場無料 (HPで予約受付、当日は先着順)
プレス各位 : 人数制限無し (事前申込受付、当日現地にて受付も可、ムービー可)

7 後援・協力団体等

後援 : 厚生労働省、日本医師会、埼玉県、ほか
特別協賛 : イオンリテール株式会社

8 日程表 (※変更となる場合がございます)

17:30 メディア受付 (会場イオンホール前にて→控室にご案内)
18:30 開場
19:00 開演
・第一部 原田 忠 ヘアメイクショー
・フォトセッション (※メディア向け)
・第二部 映画撮影ランウェイショー
(※障がいのあるモデルのみ、映画撮影)
20:30 終演 (予定)
21:00 個別取材対応
・ 原田忠氏
・ 障がいのあるモデル
・ プロモデル
・ バリアフリー・フィルム・パートナーズ代表 帆根川廣
・ 障がいのあるモデルの衣装デザイン 鈴木 綾

9 主催団体概要

名 称：バリアフリー・フィルム・パートナーズ

団体種別：非営利の任意団体

設 立：2015年6月

活動目的：・障がい者やがんサバイバー等への社会的障壁を取り除き、リハビリテーションと社会参画を推進する目的の映画を企画・製作し、上映・頒布する。
・上記に関連するイベント等を開催する。
・当会に当映画による収益が生じた場合、障がい者支援団体に寄付する。

会員数：34名（内、障がい者・難病患者・がん経験者等は13名）※2018.5月時点

主要役員名簿：

顧 問	小 淵 優子	東京都	衆議院議員
代 表	帆根川 廣	群馬県	映画監督
副代表	林 三枝	新潟県	認定NPO法人 ハートリンクワーキングプロジェクト 副理事長
副代表	森 圭一郎	東京都	シンガーソングライター、 一般社団法人LoveHandProject 理事
理 事	石黒 卓朗	新潟県	医師、医学博士、 新潟県立がんセンター新潟病院 内科部長
理 事	岡部 隆	群馬県	社会福祉士、 精神保健福祉士
理 事	小林 真	埼玉県	認定NPO法人 市民シアター・エフ 監事
理 事	須賀 祐子	群馬県	看護師
理 事	池田 君江	東京都	認定NPO法人 ココロのバリアフリー計画 理事長
業務監事	佐々 毅	東京都	精神科医、医学博士、 新検見川メンタルクリニック 院長
会計監事	中沢 丈一	群馬県	群馬県議会議員

10 お問い合わせ・取材お申込先

バリアフリー・フィルム・パートナーズ

電 話：03-6869-3373

FAX：03-6869-3361

担 当：代表・帆根川 廣、広報担当 池田 尚史

Eメール：ikedata@studio-stepano.co.jp



出演アーティスト： **原田 忠**（はらだ ただし）

1971年生まれ。群馬県出身。資生堂トップヘアメイクアップアーティスト。

NY・パリコレクションでのヘア&メーキャップ、資生堂「ウーノ」宣伝広告のヘアメイクや、商品開発にも携わるなど活動は多岐にわたる。

ギタリスト布袋寅泰氏のビジュアルアートワークをはじめ、ももいろクローバーZの『白金の夜明け』『AMARANTHUS』など、著名アーティストのCDジャケット、ミュージックビデオにビューティーディレクターとして深く関る。

また、人気漫画『ジョジョの奇妙な冒険』（集英社）のキャラクターをヘア&メーキャップとファッションで3次元化するなど、ビジュアル表現による無限の可能性に挑戦・発信し、国内外から高く評価され話題となる。

受賞歴として2008年・2012年JHAグランプリなど多数。著書に、180作品以上を収録した作品集「原田忠全部」（女性モード社）や身だしなみの極意書となる「一流の男のボディケア」（PHP出版）がある。

メッセージ：「今回のショーは、新たな美容表現に挑戦できるチャンスとなりました。

障がいの有無にかかわらず、人それぞれの美しさを引き出し、誰もが輝ける瞬間をヘアメイクアップ表現を通じて感じていただけたら光栄です。

そして、このショーが観る人を魅了し、心温まるショーになるよう、全力を尽くしたいと思います。是非、ご期待ください。」



▼ニコニコ超会議 2018 出演の様子



出演モデル：あやな なな

(生年非公開)神奈川県在住。21歳の時、ギラン・バレー症候群を発症。一時は体重が24キロまで落ちる。筋力の低下や起立性低血圧などの合併症で車椅子生活となる。

継続的なリハビリによって、好きだった踊りが出来るまでに回復し、動画投稿サイトで「踊ってみた」というジャンルのダンス動画を公開開始。車椅子の上からの軽快なダンスと豊かな表情で視聴者を魅了し、2018年4月の「ニコニコ超会議」では「踊ってみたフェス Live Part」に一般のダンサー達に混ざって選抜され出演。会場の幕張メッセいっぱいの観客と111,440人の生放送視聴者の前でダンスを披露するなど、踊りを通して人々に元気を届けつづけている。

メッセージ：「私は踊ることが大好きで、動画を通して踊る事で元気になる人がいることが、私にとって「心のバリアフリー」です。

健康だった頃には、思ってもみなかったことを経験している今だからこそわかる気持ちです。今回のショーへの出演にあたって、「心のバリアフリー」に少しでも役に立ちたいとの思いが募ります。」



▼ヤマハ発動機 商品モデル出演時



出演モデル：**日置 有紀** (ひおき ゆき)

1989年生まれ。兵庫県出身・在住。ファッションモデル。

18歳の頃、治療法の無い脊髄の病気を発症し、頸から下の麻痺となり電動車椅子ユーザーに。社会参加をしたいと仕事を探すが見つからず、社会から孤立していく。

障がい者向けウエディングドレスの商品モデルをしたのを機に、モデルとして活動を開始。様々なメディアで取り上げられ「車椅子モデル」の先駆者となる。

ヤマハ発動機・電動車椅子「02GEN」商品モデル、TBS「NEWSな2人」／NHK・Eテレ「バリバラ」他TV出演など。「福岡アジアコレクション2017」では、初の障がい者・車椅子モデルとして出演。車椅子ユーザー用レインコートなどの商品プロデュースも手掛ける。

メッセージ：「今まで様々なショーにモデルとして出演してきましたが、「モデル=颯爽とランウェイを歩く」イメージが強いためか、車椅子でステージに出ると、観客がざわついたりして、純粋にファッションショーとして観て貰えないことがありました。今回のショーでは、車椅子でショーに出ることが当たり前と感じられるようなランウェイを披露して、心のバリアを無くするための一歩に繋がたいです。」



司会進行： **藤原 薫** (ふじわら かおる)

1995年生まれ。東京都出身。俳優。

子役から映画やTVドラマで活躍し、主な出演作は日本アカデミー賞最優秀作品賞を獲得した映画『告白』をはじめ、『20世紀少年』『鈴木先生』『迷宮カフェ』、TVドラマ「花燃ゆ」「学校の階段」「幽かな彼女」など。

現在、NHK「あさイチ」おでかけLIVEのコーナーにレポーターとして月～木曜日レギュラー出演中。爽やかな笑顔を全国に届け、主婦をはじめ幅広い層に親しまれている。



衣装デザイン： **鈴木 綾** (すずき あや)

1976年生まれ。福岡県出身。ファッションデザイナー。アトリエエスプリローブ代表。

香蘭ファッションデザイン専門学校卒業後、同校教諭を経て、2002年よりウェディングプランナー、ドレスデザイナーとして活躍。2011年にアトリエエスプリローブを誕生させ、オーダーメイドの服作りを軸に、オリジナル商品のデザイン、イベントの企画運営などをおこなう。

「あなたに合わせた服作り」をコンセプトに、障がいのあるなしに関わらずファッションを楽しめるようにとの思いをのせたオリジナルブランド「E.R」を展開。福岡県を拠点に全国の障がいや病気のあるひとの元に駆けつけ、ファッションを通じて「楽しさ」を提供している。

※障がいのあるモデルの衣装を担当



主催者代表： **帆根川 廣** (ほねかわ こう)

バリアフリー・フィルム・パートナーズ代表。1973年生まれ。群馬県出身。映画監督。

2015年公開の骨髄提供を普及する目的を持った映画『迷宮カフェ』(KADOKAWA)に企画から携わり、監督・脚本を務める。骨髄提供の啓発にとどまらず、人生に迷った人々の再生の物語を温かな目線で描き、映画を観た人が実際に骨髄ドナー登録するなどの成果をあげる。『迷宮カフェ』は現在でも全国各地で自主上映が継続中。

脳血管疾患のAVM(脳動静脈奇形)が判明し2010年に放射線治療(サイバーナイフ)を受けて2014年に治癒。発症時、一時的に目が殆ど見えなくなったことをきっかけに、障がいや病気について考えるようになり、「障がいや病気があっても活躍出来る社会作りを」との思いからこの企画に挑む決意をする。

メッセージ：「映画やドラマの中で、たまに車椅子の役を見掛けます。でも、日本では歩ける役者さんが車椅子に座って演じることが当たり前になっています。本当の車椅子利用者と活躍している役者さんはいるかと聞かれると、すぐには思い浮かびません。活躍する機会が少ないからです。ここで、車椅子の役者さんが映画やTVドラマで活躍する世界をイメージしてみます。画面の中で大人気の車椅子俳優。その姿をみんなが子供の頃から観ていたら、きっと、車椅子の人を当たり前前に受け入れる社会になるでしょう。

今回取り組む映画では、本物の車椅子ユーザーにも車椅子に乗る役を演じてもらうことにしました。本物車椅子VSプロの役者車椅子。観る人の心を動かすことさえ出来れば、演技に障がいの有無は関係ありません。

このショーを通して、障がいや病気とともに生きる人たちに、超一流のヘアメイクアップアーティスト・原田忠さんの神技によって美しく輝く機会を提供します。小さな一歩かもしれませんが、誰もが尻込みせず表舞台に立って活躍できる社会を、ビジュアルで明快に表現し、発信していきたいと思います。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。」